「自分ごとにする」ために、地域の特徴を知りましょう！

高津区　基本情報

世帯数・人口（令和2年9月1日現在）

114,643世帯・234,458人

※中原区に次ぎ２位　※全市（1,539,522人）

昼間人口：185,794人（全市3位・川崎区265,121人、中原区211,644人）
夜間人口：228,141人（全市2位・中原区247,529人）
※市ＨＰ「川崎市の昼間人口（平成27年国勢調査結果報告書）」より抜粋

年齢別・人口（令和元年10月1日現在）

総　　数：233,285人
0～15歳：29,740人
15～64歳：159,791人
65歳以上：43,754人（うち75歳以上：21.655人）

65歳以上増加率1.8％増
※宮前区に次ぎ２位
※川崎年齢別人口（令和元年10月1日現在）より抜粋

ペット犬登録者数（畜犬登録数）

9,275頭（全市61,450頭）

※保健統計（平成30年度狂犬予防・動物愛護事業）より抜粋

地理

細長い市域のほぼ中央に位置し、多摩川や矢上川（鶴見川水系）沿いの平坦地と、多摩丘陵の一角を形成する丘陵地に加えて、それらをつなぐ多摩川崖線の斜面緑地によって構成され、豊かな水辺ある空間と起伏ある地形が特徴。

土地利用面積の構成：住宅系土地利用が最も多い（３５％）。
市全体平均と比べると、住宅系土地利用、農地、山林等の割合が高く、工業系・商業系の利用の割合が低くなっている。

避難所（区内22箇所）

・小学校（15）・中学校（5）・高校（1）・高津スポーツセンター（1）

避難所収容想定人数　収容可能人数（112,432人）

屋内収容想定数　収容可能人数（屋内）（40,288人）

東日本台風（2019年台風19号）の時の利用状況　避難所17箇所開設・最大避難者数5,242人・10月12日22時

東高津小（1,139人）、西高津中（587人）、高津小（786人）、久地小（690人）、高津スポーツセンター（583人）

災害リスク（浸水被害と土砂災害）

1 河川による浸水（多摩川水系と鶴見川水系）

【平瀬川下流部】（久地・溝口）

・多摩川・平瀬川の増水による浸水被害
・東日本台風（約6ha浸水）

【排水樋管（下水道）周辺区域】（諏訪・北見方・下野毛・二子・宇奈根）

・雨水処理能力を超えた降雨などの内水氾濫による浸水被害
・東日本台風（約110ha浸水、内50%程度が区内）
・宇奈根（約95ｃｍ）、二子（25ｃｍ）、諏訪・北見方（2ｍ）、下野毛（1ｍ）

2 がけ崩れ等の土砂災害

【土砂災害】

・土砂災害警戒区域（97箇所）※全市（762箇所）R2.11.27現在
▶ 土砂災害防止法に基づき、土砂災害への注意が必要な区域として、一定規模を超える斜面及びこれに接する区域を神奈川県が指定するもの

・急傾斜地崩壊危険区域（50区域）※全市（102区域）H30.3.27現在
▶ 急傾斜地法に基づき、急傾斜地の崩壊による災害を防止するため、一定基準に該当する場合に神奈川県が指定するもの

過去の災害

・令和元年10月：「東日本台風」　久地・溝口・諏訪・北見方・下野毛・二子・宇奈根（浸水）
・令和元年　6月：久末（がけ崩れ）
・平成30年　5月：新作（がけ崩れ）
・平成29年　6月：千年（がけ崩れ）
・平成28/29年：久末（がけ崩れ）
・平成元年　8月：「蟹ケ谷崖崩れ災害」死者6名
・昭和40年　6月：「久末大谷戸災害」死者24名

市直下の大地震が起こったら

・被害（想定）：避難者数（発災1～3日後）58,457人
・川崎区など南部と比較すると液状化危険度は低いが、久地２丁目などの北部や新作5丁目など東部は危険度が高くなっている。
・川崎市の地震被害想定調査によると、市直下型の地震（阪神・淡路大震災と同等の大きさ）が発生した場合、高津区ではほぼ全域で震度6強以上の揺れが想定されている。
・溝口駅は、ＪＲ南武線、東急田園都市線、東急大井町線が乗り入れているターミナル駅であり、地震の発生等により鉄道の運行が停止した場合は、多数の帰宅困難者が生じるだけでなく、周辺の駅で生じた帰宅困難者が溝口駅に集中することが予想されている。